

「行動の10年」の新たなステージへ

持続可能な 社会実現に向け 加速する「連帯・連携」

東洋経済
A C A D E M I C

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

We support the Sustainable Development Goals (SDGs)



社会の要請に応える新たな学びで
未来を拓く人材を育成する



2015年に採択された持続可能な開発目標（SDGs）。

2030年の目標達成期限に向けて、間もなく折り返し地点を迎えることとなる。

ここ数年でSDGsに対する人々の理解は急速に深まり、

全員で世界規模の課題に対峙する機運が着実に醸成されてきた。

今後はその理解を礎に、「行動への転換」が求められるフェーズと言えるだろう。

コロナ禍による逆風を乗り越えて

私たちは次にいったいどのような行動を起こしていくべきなのか。

一人ひとりができることには限界がある。

そこで鍵となるのがソリダリティ、多様な行動主体による連帯・連携だ。

国際社会や地域社会において、SDGs達成に向けた連携がすでに広がりつつあり、

社会貢献を使命の一つとする大学においてもそうした動きが加速している。

いま大学はどのような未来を見据え、どのようなアクションに取り組んでいるのか。

その姿をヒントに、ソリダリティを軸にした行動のあり方をひも解いていく。

「ソリダリティ」の力で 行動の10年を切り開く。

SOLIDARITY



SDGs行動の10年

2020年1月、アントニオ・グテーレス国連事務総長の呼びかけで「行動の10年」がスタート。
2030年までの10年間で真にサステイナブルな社会を実現するべく、国際／地域／個人の
3つのレベルにおけるアクションの加速化と対話による連携が求められている。



大学の多様な連帯連携

「仏教SDGs」を通じた社会実践。 世代や領域を超えたつながりがもたらす 持続可能な行動の連鎖

「社会との積極的な関わりを」
仏教系大学としての使命

「SDGs」と「仏教」。一見すると領域の異なるこの2つの概念を結び付けて、地球規模の課題に挑む大学がある。浄土真宗の精神を建学の精神とする龍谷大学だ。2039年に迎える創立400周年に向けた将来ビジョン「基本構想400」で行動哲学「自省利他」を掲げ、自らの行いや属する集団を省みて、他者のために尽力する大切さを説いている。

これには、入澤崇学長の大学と仏教のあり方に対する課題意識が込められている。

「以前の大学は社会にあまり目を向けない、内向きな機関だったのではないでしょうか。『大学を卒業して、社会に出る』とよく言いますが、その表現に

シャルペンチャーの起業が後を絶たない。近年、社会貢献に意欲的な学生が増えているが、学生主体の活動が盛んな理由はそれだけではないという。

「彼らの行動力に一番大きな影響を与えているのは、先輩の存在です。日常的に社会への課題意識を感じていても、解決法がわからなくては先へ進めません。タイの少数民族がつくるコーヒー豆の販売・価値普及を通して、持続可能な流通モデルを目指す『(株)アカイノロシ』や、障がい者の安定賃金の実現に向けた靴磨きビジネスを創出し、インクルーシブ社会の実現に貢献する『(株)革靴をはいた猫』など、社会で活躍する卒業生の姿が学生たちの指標になっているのです。」

世代を超えて、自然と広がっていく持続可能な社会に向けた活動。一人ひとりの小さな行動が伝播するバタフライエフェクト的な効果も、SDGsに向けた連帯の一つと言えるだろう。

SDGs達成に向けた連帯は、地域にも広がっている。龍谷大学は2022年4月25日

は大学と社会は別領域だという無意識的な捉え方が感じられます。身近にあるはずの社会に対して学生たちが関心を持ちづらい環境を私たち教育機関がつくっていたのでは、と反省しました。コロナ禍を経て、大学は今まで以上に社会に関わっていくべきだと考えています」



だと入澤学長は主張する。元来、人間の生き方を問うてきた仏教。人間存在を見つめるということは、人間の営みが原因となって引き起こされた環境問題や社会課題についても考えるということだ。

「今やSDGsは、仏教にとって無視できないテーマ。近年ようやく仏教界でも社会実践を重視する声上がるようになってきましたが、それもまだ少数です。仏教の精神を基盤に教育を行っている、私たち仏教系の大学が率先してSDGsに取り組み、仏教界全体を巻き込んでいくべきだと思います」

入澤学長は、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsと「摂取不捨（すべてを省く）という仏教の考え方（共通点を見いだし、「仏教SDGs」を提唱。自身が理事長を務める「龍谷総合学園」にも、その考え方を広めている。龍谷総合学園とは、浄土真宗本願寺派の宗門に属する24法人、72校からなる国内最大規模の学園グループ。2019年には仏教SDGsについて考える新規

『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」ことを掲げる龍谷大学。ロシアによるウクライナ侵攻が起これと、いち早く声明を発信し、大学としてできることを模索し始めた。そうして実現したのが、ウクライナ・キーウ大学の留学生受け入れだ。ウクライナがソビエト連邦から独立した直後、1991年に学生交換協定を結んだ龍谷大学では、これまで40名以上の留学生をキーウ大学から受け入れてきた。

「気候変動でも戦争でも、犠牲になるのは弱者。誰かを犠牲にして成り立つ社会というのはやはりおかしいと思います。SDGsはそんな世界を変えるためのカギです」

SDGsの概念が一般社会に広まった今、社会を変えるために必要なのは、世界に対する危機感と行動する意志だ。理想を語るだけでは、現状は変わらない。使命感を持って「仏教SDGs」を推進する龍谷大学が、私たちに身をもって示してくれている。

TOPICS

「オール龍谷」でウクライナの学生を受け入れ

2022年5月13日、龍谷大学は、学生交換協定校のキーウ大学（ウクライナ）の学生1名を交換留学生として受け入れた。到着時には歓迎セレモニーが開かれ、キーウ市と姉妹都市である京都市の門川大作市長、龍谷大学の学生・教職員らがウクライナ国旗の手旗と横断幕で出迎え、歓迎の意を表した。

龍谷大学は、仏教SDGs推進に向けた取り組みの一環として、ロシアによるウクライナ侵攻で影響を受けている学生を早急かつ積極的に受け入れ、京都市をはじめとする学内外関係団体と連携しながら「オール龍谷」で支援することを表明している。今回の受け入れはその第1段階として実現。2022年度後期からは、キーウ大学に限らないウクライナの学生を龍谷大学で10名程度受け入れ、学生たちが日本語を学んだ後は、それぞれの希望にあわせて学部や大学院への進学、就職先の斡旋についてもサポートする予定だ。

国際社会が深刻な状況にある今だからこそ、龍谷大学から「自省利他」の行動哲学を世界に向けて発信し、自ら実践していく。

プロジェクトが始動し、全国の加盟校から参加した高校生がよりよい未来に向けた熱い議論を交わした。

世代、領域を超えて広がる
連帯の輪

「多くの若者たちがさまざまな社会問題を自分事として捉えています。その行動力には驚かされるばかりです」と語る入澤学長。学生の柔軟な発想力と豊かな感受性を生かしたユニークな取り組みや、社会問題の解決を主目的とするソー



龍谷大学 学長
入澤 崇



アグリDX人材が 農業の未来を変える

農学部 × 先端理工学部

農業DXの力で
脱炭素社会実現へ

2022年4月、龍谷大学は文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択され、新たなプロジェクトをスタートした。その名も「アグリDX人材育成事業」。農学部と先端理工学部の協働・連携により、DX（デジタルトランスフォーメーション）による農学部の実習の高度化を図り、農業分野のデジタルマイนด์・スキルを持った人材を育成する取り組みだ。農業従事者の高齢化や労働力不足などが年々進む中、農業を持続可能な成長産業とするためには、デジタル技術を活用した生産性の向上が欠かせない。龍谷大学は、変革の担い手を育てることで、日本の農業を取り巻く諸課題の解決に挑む。

この事業の特徴は、テーマの一つに「脱炭素社会の実現」を掲げている点だ。龍谷大学は2022年1月に「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を发出し、4月に環境省と「地域脱炭素の推進に関する協力協定」を

締結。2039年（遅くとも50年）までの各キャンパスのカーボンニュートラル実現に向けてさまざまな取り組みを推進しており、今回の事業もその一環と言えるだろう。農耕地では肥料の過剰投与で温暖化係数の高い温室効果ガスが発生すると言われている。データに基づいた適切な生育管理は脱炭素社会への一歩となるはずだ。

学部を超えた学びがもたらす
“地に足の着いた”
データサイエンス

「2020年の理工学部から先端理工学部への改組により、分野横断的な学びが促進できました」と話すのは、先端理工学部長の外村佳伸教授。従来は学科制をとっていたが、全国の理工系学部で初めて課程制を導入。機械工学から情報科学まで幅広い領域を横断した学びが可能になった。今回の取り組みはその連携を学部外へと広げた形だ。一方タッグを組む農学部は、開設当初から人類生存の根源である「食」と「農」に関わる多様な課題を解決できる人材の輩出

一方、大門教授は学部を超えた学生間の交流にも期待を込めてこう話す。

「4月にできたばかりのSTEAMコンモズは、ものづくりのための機器やキッチンを備えた交流スペースが充実していて、学生たちが集うにはぴったりです。若者ならではの柔軟な発想で、新しいベンチャーやプロジェクトの立ち上げにもぜひ挑戦してみてほしいですね」

瀬田から発信する
新しい農業の形

映像から成熟した野菜だけを判断して収穫するロボットや高齢者の農作業を助けるパワードスーツなど、農業DXにおけるさまざまな研究開発が進む中、龍谷大学では既存のものを後追いつめるのではなく、その次の新しい技術を生み出したいと語る大門教授。例えば、画像認識やセンサーの技術を応用すれば、必要な場所だけに肥料をまく仕組みを開発できるという。

また、データサイエンス以外にも、水処理を扱う環境系やシミュレーションモデルを組み立て

に注力してきた。農学部長を務める大門弘幸教授は次のように語る。

「農学部では、キャンパスの近くに有する約2・7haの実習用農場と研究用圃場を活用して農業の現場を体験しながら農学の原点に迫ることができます。先端理工学部の情報系や環境系の学びと掛け合わせることで、大きく変化する環境や複雑な課題に柔軟に対応できる人材を育成できるでしょう」



アグリDX人材育成事業では、農学部の作物生産、農耕地保全、食品加工に関する実習と、先端理工学部のデジタル技術やデータ分析手法に関する実習を相互



大門 弘幸
農学部長



外村 佳伸
先端理工学部長

る数理系など、農学と連携できる分野は幅広い。中でも、採取した水からその水域に生息していた生物を特定できる「環境DNA」は、全国でも研究の中心的な役割を果たしている龍谷大学の生物多様性科学研究センターで、先端理工学部の教員が先端的な研究を進めている。革新的な分析技術を活用して土壌の微生物の分布を明らかにし、農耕地に最適な環境を整えることも可能だ。

自然に囲まれ、農業が盛んな滋賀県。龍谷大学瀬田キャンパスでは、その豊かな環境と自然科学分野の最先端の知見を生かして、持続可能な未来への挑戦が続けられている。



問題の解決を主目的とした「ソーシャルビジネス」の起業を支援する「ユネスソーシャルビジネスリサーチセンター」を設立。2022年1月には「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」、同年2月には「龍谷大学SDGs宣言」を策定するなど、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて取り組みを加速させている。

予測困難な時代に対応し、社会と向き合って人を支える心理学へ

2023年4月に予定されている心理学部の開設も、基本構想400の具現化に向けた取り組みの1つだ。心理学部長に就任予定の吉川悟教授はこう語る。

「AI技術の急速な進化や新型コロナウイルス感染症によるパンデミックなど、現代は我々がこれまで経験したことのないような出来事が次々と起こる予測困難な時代です。不安やストレスを抱える人々が増え『心の危機』とも言える今、社会課題の解決には人と心のつながりを探究する心理学が不可欠なのです」

現在の文学部臨床心理学科を

発展的に改組し、新たに誕生する心理学部。長年、対人支援における専門職業人を養成してきた実績を生かしながら、時代に即した教育を展開していく。

近年、複雑化する社会において、臨床現場では新たに2つの専門性が求められている。1つは、チーム医療やチーム学校といった「多職種連携」を実践するための高度なコミュニケーション・スキル。もう1つは、クライアントと呼ばれる個人ではなく、クライアントに関わる家族や、関係者に対する心理的支援だ。この社会的要請に対して臨床心理学科では、積極的に実践的な教学活動に取り組み、多様な職能との協働的支援によって社会の安全・安心の確保と発展に寄与する人材を輩出してきた。心理学部ではさらに、心の動きをデータとして統計的に処理・

分析し、科学的に捉える「データサイエンス」と、心理学が社会においてどのように活用されるのかを学ぶ「キャリア啓発」を柱に据える。

また、スキル養成の枠組みとして、発達段階に応じて個人の心ニアプローチする「生涯発達カウンセリングプログラム」と、社会で共に生きる人々のつながりにアプローチする「関係支援とコミュニケーションプログラム」を配置。学生自身の関心やキャリアビジョンに合わせて専門分野を自由に選択できる仕組みとなっている。開講科目には、ジェンダーやスポーツ、仏教、マインドフルネス・ヨガなど多彩なキーワードが並ぶ。

「近年、SDGsの目標3にも登場する『ウェルビーイング（すべての人に健康と福祉を）』が注目され、心身ともに良好で、幸福に生きることが重視されているま



心理学部では実践的な学びを通じて、チームの力を引き出すスキルを身につける

す。本学部で培った心理学の知識やコミュニケーション・スキルは、医療、教育、福祉などはもちろん、あらゆる業界の現場において大きな力になるでしょう」

仏教は、世界で初めて心の解明に挑んだ宗教。浄土真宗の精神を踏まえた龍谷大学ならではの教育展開に注目が集まる。「『自省利他』に基づき、心のつながりに迫る新たな学びが予測困難な時代を生き抜く私たちを明るく照らしてくれるだろう。」



「仏教SDGs」の具現化 心のつながりを探究する心理学部の開設へ

You, Unlimited

More United

心のつながりを探究し、

龍谷大学 心理学部
2023年4月新設

More Empowered

社会に力を生み出す。

世界の平和に寄与する
仏教SDGsの取り組みを推進

建学の精神「浄土真宗の精神」の下、教育・研究を通して社会に貢献し続けてきた龍谷大学。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsと『撰取不捨』（すべての者をおさめとって見捨てない）という仏教の考え方に共通点を見いだし、「仏教SDGs」という独自の視点で、多様な取り組みを展開してきた。

2039年に創立400周年を迎える同大学は、現在、長期計画「龍谷大学基本構想400」を推進している。軸となるのは、自らの行いや属する集団を常に省みて、他者のために尽力する行動哲学「自省利他」。そして、この「自省利他」の心を「まごころ」という言葉に置き換えて、将来ビジョンとして『まごころMagokoro』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」ことを掲げる。その一環で2019年6月には、社会

University Information

龍谷大学 Ryukoku University
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
URL: <https://www.ryukoku.ac.jp>



つながり、広がる仏教SDGs 学生たちの行動が社会を変える

がないばかりに独りで苦しむ学生がいると知った龍谷大学は、2021年6月に「生理の貧困を解消するためのワーキンググループ」を立ち上げた。学生へのヒアリングを行った結果、さまざまな「生理に関する悩み」が明らかに。ワーキンググループでの活動は、生理不順で急な生理への対応に苦労している学生にとって安心して快適なキャンパスライフにもつながる。その安心感が、龍谷大学が大事にしている「まごころ」や掲げている行動哲学「自省利他」に基づいた活動だと言えるだろう。

現在は学内トイレ約200カ所にO i T rを設置済みで、引き続き設置台数を増やしていく。LGBTの課題などにも配慮し、今後は男子トイレの一部にも設置を検討している。

コロナ禍の不安や孤独を癒やす学生運営のカフェ「café rita」

龍谷ミュージアム階にある



専用アプリをかざせば、誰でも利用することができる

「café rita（カフェリタ）」は、龍谷大学の学生たちが運営しているカフェだ。ドリンクやスイーツの仕入れ先の検討からメニューの提供まで、すべて自分たちで行う。前田澁太さん（国際学部3年）と高岸武美レスターさん（国際学部3年）、石澤優紀さん（文学部4年）、小倉達矢さん（文学部4年）の4人が、学業と両立しながら週2日営業している。

「誰もが集えてホッとできる居場所を作りたい」と考えたメンバーは、教員から龍谷ミュージアムがスペースの活用を検討しているという情報を入手。大学の奨励金なども利用し、動き出してから数カ月という速さでcafé ritaをオープンさせた。

店名の「café rita」は、自らを省みて他者のために行動する行動哲学「自省利他」にちなんだもの。「コロナ禍で人々が抱いた漠然とした孤独や不安を少しでも癒やしたい」というのが店のコンセプトだ。知らない人同士が卓を囲んで気軽に話してほしい、そんな思いで手作りした大きなメインテーブルの席も配置されている。



仏教SDGsの取り組みを独自のプラットフォームで発信

龍谷大学が推進する「仏教SDGs」の主な担い手は、意欲あふれる学生や卒業生たちだ。その取り組みを紹介するために、2021年6月に特設サイト「みんなの仏教SDGsウェブマガジン・ReTACTiON」が開設された。「ReTA（利他）+ACTiON（行動）」は「自省利他」に基づいて行動する、「Re（再）+TACTiON（触覚）」は「今一度、感覚を研ぎ澄まし、世界に触れ、持続可能な社会につながるヒントを得る」という2つの意味が込められた同サイト。仏教とSDGsを結び付ける龍谷大学だからこそそのアプローチで、教育・研究、社会貢献の諸活動を社会に発信している。本記事では、数ある取り組みの中からいくつかの事例を紹介する。

みんなで考える生理
学生の情報発信をきっかけに

コロナ禍で顕在化した、経済的に生理用品を購入できない「生理の貧困」の問題。各地で

卒業生が起業した輸入販売店「アカイノロシ」のコーヒー豆や経営学部藤岡ゼミと高級紅茶ブランド「ムレスナティールハウス」がコラボレーションしたオリジナルブレンド紅茶「深草OTOME」など、メニューで扱う商品は龍谷大学とつながりのあるものばかり。4人のそれぞれの得意ジャンルを生かしたイベントを不定期に開催するなど新しいつながりがどんどん広がっている。

小さな行動の積み重ねが
大きな社会変革につながる

学生の社会課題への問題意識やアイデアが、さまざまな形で結実している龍谷大学。その勢いは、大学発ベンチャー企業数にも表れている。経済産業省が2022年5月に取りまとめた「令和3年度大学発ベンチャー実態等調査」では、ベンチャー企業数が、関西4位にランクイン。社会課題の解決に取り組むソーシャルベンチャーの起業支援にはとりわけ力を入れている。これまで数々の学生ベンチャー育成事業に携わってきた副学長の

生理用品を無料で提供する活動が行われているが、龍谷大学も例外ではない。2021年9月にオイテル株式会社のサービス「O i T r（オイテル）」を関西の大学で初めて導入。学内トイレの個室に設置された装置に専用アプリをかざすと、生理用ナプキンが無料で提供される仕組みになっている。

きっかけとなったのは、「龍谷大学社会起業家育成プログラム2020」で、大木優芽さん（文学部3年）らのチームが発表したビジネスアイデアだ。日本では生理に関する正しい情報発信が他国に比べて後れていると気づいた大木さんは、生理の悩みに医師が助言する情報サイトの企画・運営を提案。経済的、心理的な理由や生理への正しい知識

みんなの仏教SDGsウェブマガジン
ReTACTiON

龍谷大学の諸活動を発信。意識改革と実践的な活動の両輪でSDGsを推進していきます。

<https://retaction-ryukoku.com/>

THE インパクトランキング 2022
総合順位「国内私大6位」にランクイン

龍谷大学は、強みを生かせる分野として下記の目標にエントリー。総合順位で国内私大6位(タイ)に入るとともに、目標17の「SDGs教育」において、特に高い評価を受けた。